

審判講習会 参加報告書

平成 29 年 3 月 21 日

報告者 川村 貴昭 印

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	「東日本大震災復興支援」 第 43 回 全日本クラブバスケットボール選手権大会 群馬大会
参加者 (報告者)	川村 貴昭 (所属カテゴリー) クラブ連盟
期 日	平成 29 年 3 月 17 日 (金) から 平成 29 年 3 月 20 日 (月)
会 場	ALSOK ぐんまアリーナメインアリーナ、ヤマト市民体育館前橋主競技場
報告① 実技講習	<p>審判研修会 I B 級審判員 (全国各ブロック研修生) 対象講習会 講師：日本クラブバスケットボール連盟審判委員会メンバー 実技講習≪モデルチームを使用したゲーム形式での実践講習【2 人制+講師のシャドウ】≫ テーマ：『2 パーソンメカニクスの確認と 2 人の協力の徹底!!!』</p> <p>★受講生：講師のシャドウを含む実技の後に、ミーティング。講師より反省をいただく。 ★試合時間：7 分ゲーム 1 人 1 ゲーム担当</p> <p>■講習内容</p> <p>※ゲームに先だって、日本クラブバスケットボール連盟審判委員会指導担当の増渕泰久氏のお話 『皆さんは各ブロックの研修生枠を勝ち取ってここにきた存在。まずはそれを祝福し、4 日間を挑戦してほしい。今講習会で意識することは、とにかく基本 (マニュアル) の徹底。2 PO をいかに日頃実践しているのか。講師は S 級を含むメンバーがほとんど、日本で一番贅沢な研修会とも言われている。講師の動き方がすべて正解ではないが、講師のアドバイス、感じ方、気づき、そしてシャドウの動きと自分の動きとのズレを感じながら、吸収してほしい。それを明日からの本大会、そして大会終了後地元へ帰った後、しっかりと地元へ伝えてほしい。』</p> <p>□B コートー第 1 ゲーム (大学チームを使ったモデルゲーム) 野田 宏樹 氏 (九州ブロック)、川村 貴昭 (報告者) シャドー講師・・・茂泉 圭治 氏 (S 級審判員 日本クラブ連盟 指導担当)、 加藤 昌樹 氏 (S 級審判員 日本クラブ連盟 東海ブロック長) ミーティング講師・・・関 和明 氏 (A 級審判員 日本クラブ連盟 北信越ブロック長)</p> <p>○プレ・ゲーム・カンファレンスより</p> <ul style="list-style-type: none">・この大会に至るまで取り組んできたことを表現する。・2PO メカニクスの実践、その中で「自分が見なければならないもの」と「相手が見ているもの」を明確にするために意識しながら取り組む <p>○講師の方々より</p> <p>全体的にとっても良かった。日頃の基本の実践がうかがわれる。その中で、積極的にスイッチサイドを試みた場面がいくつかあったが、相手のプライマリーを意識して行かなくてもよかったという感覚を持つことも大切である。動き方について、特にリードのセットアップ〜クローズダウ</p>

ンの動き、オープンアングルを取る動きなどがとても良かった。トレイルの時に、自分から始まるベースラインドライブに対して、あらかじめダウンして（3人制でいうとセンターレフリーのポジショニング）プレイを捉えると、より良くなるとのアドバイスをいただいた。

□総括 久保 裕紀 氏（S級審判員 日本クラブ連盟 副審判委員長）

- ・本日の講習会で、講師からの反省内容を次のヒントにして欲しい。また周りから見て、違いを感じることもあると思うが、感じたこと、得たことを各ブロックに持ち帰って、伝えて頂きたい。
- ・とにかく基本が大切である。今以上に日頃のすべての試合を大切にして、良い習慣づけに取り組んでほしい。

□研修会を取り組んで

冒頭からの話にも言われたことだが、メカニクスの徹底、基本（プレゼンテーションやマニュアル）の大切さを改めて認識した。良い判定をしても、上述を怠ることで自身のマイナスになってしまう危うさを実感した。シャドー講師の方々から、試合中の局面に対してリアルタイムにアドバイスをいただくことで、自分が気づいていない情報を得たり、自分とは違う位置取り（視野の取り方）、プレイに対する感じ方を体感でき、今までの自分にはないものを得ることができた。

今回学んだことをきっかけとし、日頃の活動に取り入れ、更に自分自身のレフリーと向き合い、変化させていきたい。また、担当モデルゲームに限らず、全国各地の仲間と同じテーマを追求しながら意見交換をぶつけることができたこともありがたく感じた。

□ゲーム 日時 3月20日（日）12時10分～トスアップ

ALSOK GUNMA CLUB（群馬）対 リゲルス（九州）

主審 安藤 俊明 氏（千葉県 A級審判員）

副審 川村 貴昭（愛媛県 報告者）

主任 丸山 大 氏（本部 A級審判員）

■ミーティング内容

- ・プレ・ゲーム・カンファレンス

1、お互い勝ち抜いてきたチーム、そして ALSOK は地元チームで応援も含めてホームであるという雰囲気について共有

⇒公平性、一貫性をより強く意識して取り組む

2、両チームの特性を共有

⇒ALSOK はサイズの高い選手が揃い、ハーフコートバスケットで主導権を握ろうとするチーム、なおかつトラッシュトークでプレイヤー、ベンチがどんどん口を出してくる（クラブチームらしいチーム）。対してリゲルスは、サイズはあまりないが、ガード中心にトランジションを仕掛けてよく走るチーム（高校生、大学生のように1試合を通じて走りきるチーム、オールコートで激しいプレスをかけ、タフなディフェンスをやり続ける。クラブチームらしからぬチーム）。上述のように、チームとしてのスタイルが対極の両チームは、どちらも自分達のバスケットを実践して主導権を握ってくるのかといった展開を2人で予想した。

⇒試合の始まりを特に集中して取り組む

3、ALSOK のインサイドプレイヤーに対する守り方の意識付け

⇒特にリードが積極的に判定をしていく、スイッチサイドをしたときはトレイルがアングルを変えて3番エリアをカバレッジすることを共通認識。良いアングルをとらえたレフリーが、自分が判定するという意志を持って思い切り表現する

報告②
ゲーム

	<p>4、リゲルスのガードプレイヤーのプレイに対する対応について共有 ⇒手を使ってタイトにプレッシャーをかけてくるので、しっかりと良し悪しを判定していく</p> <p>5、メカニクスの確認 ⇒エリア6のエンド・ラインのアウト・オブ・バウンズは、リードが見つらいので合いコンタクトを取ってトレイルがカバーすること等</p> <p>・試合後（主任及びパートナーからのアドバイス） とても気合が入っていて、集中して臨んでいるのが伝わってきた。試合の入り方が特に良く、自分の今の基準を明確に持って、それに当てはめていきながら丁寧に、的確な判定を積み上げていき、試合にとってもマッチしていた。きっと自分自身でも手ごたえを掴んでいるだろうから、信じて自信を持ってやればいい!!あとは2人のクロージング・ゲームの上手さが印象に残った。両チーム激しいチームで、最後まで気を抜くことなく、ファールを見逃さず取り上げていき、負けているチームへの細心の配慮が好印象だった。</p> <p>⇒次への課題 トレイルレフリーの位置取りで、リードがどうしてもカバーできないところ（トレイルしか絶対に見えないところ、エリア6から5に向かってくるプレイ）を判断し、ポジショニングを変える工夫をしていく</p>
<p>所感</p>	<p>昨年度、地元愛媛県で開催された後の全クラ群馬大会、昨年度の感謝、四国の代表として選ばれた思い、選ばれなかった仲間の思いも感じながら、4日間、今の自分にできることをすべて挑戦しようと臨んだ。</p> <p>特に今年1年の準備として、上述したように自分の担当試合を全力で挑戦するのはもちろんのこと、自分の担当試合以外でどのように取り組むのかを強く意識していた。</p> <p>そこで自分は、たくさんの仲間の試合を集中して観戦し、『自分ならどう判定するのか』を常に考えながら見た。その際、1人で見ずに、必ず仲間と一緒に見て、質問をしたり、自分の意見をぶつけたりと、例年以上に積極的にコミュニケーションをとった。愛媛の片田舎のレフリーで、審判を始めた時は知り合いが決して多くはなかったが、昨年度の愛媛全クラで自分をよく知っていただいたことや、活動歴を通じて日頃の県外活動での新しい出会いをコツコツと継続していたことが実を結んできたことを実感した。クラブレフリーの一員として好意的に、肯定的に受け止めていただき、たくさんのアドバイス、あたたかい励ましをいただいたことにたいへん感謝を覚えた。オフザコート的一幕では、全国各地の同級生レフリーが、自分のために新しい出会いをつくっていただき、さらに交流を深めたこともこれからの自分のかけがえのない財産となった。来年度はいよいよ最後の全クラ、佐賀大会。四国で1つの研修生の枠を獲得し、最終日のコートに必ず立つという覚悟を持って、今からいっそう励んでいく所存である。</p> <p>最後になりましたが、全日本クラブ選手権群馬大会に至るまでに、いつもそばで支え続けていただいた地元審判員の仲間、遠くからいつも応援してくださる日本全国のクラブレフリーの仲間、そして素晴らしい今大会に関わったすべての皆様に深く感謝申し上げ、私の報告とさせていただきます。本当に有難うございました。</p>